

韓人代表

明治三十二年八月 書 政務局

乙種第三七一號 五月七日

第一課

笑

日韓合邦論に對する韓人の言動

韓國興學會副會長朴炳哲の日韓合邦問題

對したる通り言明し居し

我が韓國に於ける政治的團體の重なるモノハ

第一大韓協會第二西北學會第三一進

會三種にして大韓協會ハ恰モ日本に於

ける政友會ノ如ク全國民多數ノ會員

ヲ有し韓國國民全般ヲ代表し居る政治團

體ト謂フモ殆ク適言ニアラズ又西北學會

文字ノ示スガ如ク平壤・平安道・咸鏡道

黃海道等韓國西北地方に屬せん政治的

學術ノ進歩ヲ圖ル政治團體タルニ過キ

ズ又一進會ハ或ん一部ノ人士ヨリ成る政治

團體にして其勢力ヲ我が韓國に於てハ大

韓協會ノ如ク尨大ナラズ其人會員ハ僅

カ三千人内外ニ過キズ而して大韓協會及

西北學會ハ其主義及目的トスル所大體

第1015

文第 3527

於テ強ク相合致シ居リテ敢ル所何シモ
愛國主義ト謂フニ外ナラズ独リ一進會ニ
至リテハ素ヨリ何等ノ主義目的ナク些ノ愛
國心ナク祖國ニ對シ不平ヲ懷キ居ル所謂一
種浮浪者ノ會合ニシテ今回日本新聞
紙ノ報ガル所ニ據レバ一進會ハ突如トシテ
日韓合邦論ヲ提唱シタル由予ハ未ダ此
件ニ付本國ヨリ何等ノ報道ヲ得カレハ果
シテ事實ナルヤ否ヤヲ知ラカレトモ今

後リト之ヲ事實ナリトスレバ實ニ其暴
狀果然タラカレシ得ズ東洋平和ノ爲
ノ慨歎ノ至ニ堪カレナリ

看ヨ今日日韓兩國合邦シタリトテ目下何
等ノ利益アリヤ否却テ合邦ハ大害アリ
トモ寸益ナシマテ目下學生ノ身分ニシテ
日夜黽勉學術ノ研鑽ニ從事スル外余
ク餘事ナキモノニシテ如此政治上ノ問題
ニ容喙論議スルハ學生ノ本分ヲ逸シタ

リ云フ謂リハ免シカルヤ知ラカレドモ予モ韓
國民ナリ本問題ハ我韓國ノ興廢ニ關ス
重大問題ナレバ仮令學生タリト雖モ之
ヲ論議スルニ於テ敢テ僭越ノ事ニアラズ
吾國民ノ本分ナリト信ス

我ガ韓國民ハ其數卅千萬以上ニシテ一
進會ハ其會員三千万内外ニ達シキ不此
ノ少教ヲ以テ一進會ハ多教一般國民意
志ニ背キ且テ開國四年五百年間独立ニ

来リタル祖國ヲ顧ミ不如何と日韓合邦
ヲ主張シタリトテ我々多教國民ハ断然死
シ見ルトモ許スベカラサル所ナリ又日本政府
ニ於テモ韓國ノ状態ヲ聊カ知シ居ルト
スレバ开ハ容易ニ此ノ議ヲ容シカレバ若
シ不幸ニモ容易ニ之ヲ快諾セバ日本政
府ハ保護國又ハ母國タル資格ヲキキナ
リト云フモ敢テ憚ラサル所ナリ
然リト雖モ予ハ合邦ヲ絶對ニ反對スル

モノニアラズ未ダ我國民幼稚ニシテ且ツ國
カモ微弱ナレバ日本政府ニ於テハ母國タル義
務トシテ我韓國ノ状態ヲ際々鑑ミ我カ
國民ノ教化ニ努メ誘導啓蒙ヲナシ然ル
後必西帝アレハ合邦ヲ締結スルモ何ノ
遲キコトカ之レアツレ一進會ハ前述ノ如
ク何等ノ主義ナク目的ナクシテ或ル隱然
タル傀儡者ノ爲メ醜弄セリ四十五年
四年ノ歴史ヲ有シ辛クモ独立ヲ維持シ

来リタル祖國ヲシテ一般國民ノ意志ニ及ビ
一朝之レガ犠牲ニ供セントスルハ何タル暴狀
ゾヤ血アリ涙アルモノ如何ニ忍バントスルモ
忍ブ能ハカル所ナリ若シ強テ此ノ提唱ヲ
断行セントセバ我が韓國ハ立トコトハ國亂
ヲ惹起シ飯スル所ナキニ至ルベシ云云

ト憤慨シ語シリ

昭和四十二年十二月十日

乙秘第三七三號 十二月九日

第一課

李承燾

韓國留學生ノ行動

本月六日午後六時ヨリ麹町区中六番町元韓國公使館内大韓興學會ニ同會評議員

李豊載 朴容喜 文尚宇 李康賢

李義瑾 鄭世胤 南宮營 崔浩善

金尙恭 金洪驥 洪鑄一 趙鏞殷

金河球 李寅彰 李允容 崔浩養

尹臺鎮 金國彦 南廷奎 崔元植

李得年 金永植 姜麟祐 崔俊晟

邊熙駿

外會員十數名集會今回一進會ノ提唱ニ係ル日韓合邦問題ニ付各自激烈ナル反対意見ヲ発スル後韓國政府ハ勿論各團體休學校其他韓國全体ニ對シ一進會ノ生命ヲ断ツニ努メ合邦ハ絶対ニ反対スベシトノ件ヲ留學生一般ヨリ勧告スルニ決シ之ヲ違自及勸告書自起草委員トシテ

朴炳哲 李義瑾 尹臺鎮 文尚宇

趙鏞殷 高元勳

ヲ選定散會

翌七日其草案成リタルヲ以テ昨八日午前一時ヨリ在東京
留學生全部ヲ召集シ評議員會長李守愚呈載會頭
席ニ就キ「進會」提唱ハ高貴目的行動ナルヲ以テ同會
ノ解散ハ勿論韓國全体ニ向ッテ合併反對ノ輿論ヲ喚
起セシムルト同時ニ「進會」ヲ根底ヨリ破壊スル方策ヲ
講スルハ刻下ノ急務アリ着シ韓國政府ガ「進會」ノ行
動ニ付嚴格ナル措置ヲ爲サルニ於テハ就テ其徳ニ

奮ラント欲ス依テ今日諸君ト會シ之ヲ協議スルモ
ノナリト説示スルヤ三百有餘ノ學生ハ同氣相應シ此
際學生全部既固シテ「進會」ヲ打破スベシ或ハ李
容九殺スベシ等種々突飛ノ議論ヲ闘ハシ喧擾ヲ
極ムルヨリ會長モ其措置ニ困難シムルガ諸君ニ名
乃至五名ノ委負ヲ擧ゲ委員ハ直ニ既固ノ上合併
反對並ニ「進會」ヲ解散シ同會員ヲ嚴罰シ起スルコト
等ノ事項ニ関シ運動スルコトニ決シ漸ク一時中
至リ散會ヲ告ゲタルガ若ノ結果トシテ李守愚呈載(目

水戸學堂(高元勳(明治大學堂)ノ品名ハ奉還年盾
三時四十分新橋齋京城ニ向アリ
以上

REEL No. 1-0866

0189

明治四十二年十二月十三日接受

警政務局

乙秘第 二七三四號

十二月十日

朝鮮

朝鮮問題全盟會件

費持

第一課

佐々木

3
10
門

本日午後四時三十分ヨリ 櫻田俱樂部ニ於テ朝鮮問題
全盟會ヲ開ク出席者

長谷川芳之助 三輪信次郎 三浦逸平

望月龍太郎 五百木良三 大谷誠夫

福田知五郎 横矢重道 高橋秀臣

等ニシテ左記ノ事項ヲ決定シ午後五時三十分散

會セリ

第 3584 號

左記

本月十三日正午ヨリ神田錦輝館ニ於テ大會ヲ
開キ引續キ演說會ヲ催スニト

一 実行委員ハ特ニ之ヲ選定セス全盟會關係
者全部ヲ委員トスルニト

以上

七ノ如ク考案

明治四十二年十二月十七日接受 主普 政務局

乙秘 第ニ百六八號 十二月十六日

第一課 柴原

朝鮮

代議士近江谷榮次ノ行動

第143

朝鮮問題同志會會員近江谷榮次ハ同會會員中最も熱心ナル合邦論者ニシテ此際是非之レガ目的ヲ果カンガ爲メ同志藏原惟郭、山田喜之助等ト數カシ先ヅ自己ノ所屬團體タル又新會ヲ動カサント榮次申ナルガ其意見ハ(一)皇帝ノ尊號廢止(二)統治權ノ獲得(三)韓國內閣及統監府ヲ廢シ統督府の官廳ノ設立ニテ、開國勅令ノ一區之レガ目的ヲ達スル手段トシテ、本年十二月三日錦輝館ニ於ケル朝鮮問題演説會ノ演説要旨ヲ印刷シ之ヲ在韓内閣委員ノ許ニ送り、進會員全部ニ配布セシメ我が國民が合邦ヲ歡迎スル意思嚮ヲ知ラシメントテ目下其準備中ナリト云フ

3753

以上

以上

シ



23756

昭和十二年十二月十七日

善政務局

第一課

乙秘第ニ七七號 十二月十七日

韓国留學生ノ行動

警報

三

合邦問題：関スル韓国留學生ノ行動：就テ既報ヲ
 経テルが彼等ハ去ル十二月錦輝館ニ於ケル朝鮮問題同
 志演説会ノ弁士數名ガ合邦論ヲ唱ヒタルニ對シ警察
 官ガ之ヲ制止セザリレハ祖國ヲ侮辱セラルトシ之ガ状
 況ヲ該國ノ先輩及元老ニ報シタリト云フ尙ホ學生
 中當日李容九ヨリ河野廣中ニ宛申訳的ノ電報ヲ
 送りタルヲ深ク憤慨シ本問題ヲ惹起セルハ李容九

宋夏峻ノ兩名ナルヲ以テ彼等ニ天誅ヲ加フルノ外
 シト云フ者アリ

又中西自深更良農ニ總代トシテ該國ヨリ李豊載高元
 勳ノ二名ヨリ統監府ノ壓迫甚ダシキ旨通知シ來リ
 シヲ以テ此上ハ再び學生ノ總會ヲ開キ冬期休業ヲ
 利用シ何レモ該國ノ出立會ノ解散ヲ迫ラント内議
 シツキアリト云フ (嚴密偵察中)

45

録
門

大正3776

明治四十二年十二月二十日

警務政務局

第一課

原

内務大臣

山口縣支事

十一月十日午後五時五分
十一月十日午後三時三十分

宋秉煥本月十六日東京其ノ意向ヲ披ケルニ在
 間ノ注意ヲ避ケルニシテ韓シタル如クニ其ノ後
 ク此ノ地ニ止マリ大隈伯ノ後援ヲ得テ日韓合
 邦ノ輿論ヲ喚起セントスルモノ、如シ又木子総理大
 臣ハ之ヲ方ゲンカ爲マリジシヨクナル者ヲ派遣シ
 今人ハ本日下ノ南入港ノ連絡船ニ乗リ、未午前九
 時三十分下ノ南入港ニ至リ、東京へ客行セリ

内務省

第10門

3777

字

高機第一二七四號
 本縣選出代議士近江岩津次、過般未上京中、處
 地ニテ探聞スル所ニ於テ、今人、内田良平ト共ニ
 政見視察宗ノ各ヲ以テ、韓國ニ渡航シ、目下日韓合邦
 ヲ主張セル進會ニ氣脈ヲ通シ、何等ヲカ為セントスル
 目的アル由ニ有之、其事、實正確ヲ期シ、難ク候得共
 爲御參考、此段及報告候也

明治四十二年十二月九日

秋田縣知事 森 正隆

内務大臣 法学博士 男 野村平田 車助 殿

内務省

要旨
 第一
 第二
 第三
 第四
 第五
 第六
 第七
 第八
 第九
 第十

昭和十二年十二月二十日

郵務局

第一課

乙 秘第 二七九四 號

十二月十九日

朝鮮問題同志會 會合件

3

本日午後四時ヨリ櫻田俱樂部於テ朝鮮問題同志會
會合アリ出席者ハ長谷川若之助 坂本金弥 六川幸吉
藏原惟郭 五百木良三 室月龍太郎等トシテ翌日大會
際ニ一進會會長 李容九ヲ 寄セタル祝電ニ對シテ
電業 協議決定ニ本日欠席シタル河野廣中一
應ニテ亦シタル上打電スルトナリ今四時三十分散會
セリ 此テ談話電業ハ秘密ニ付シ発表セズトス

3778 秘

昭和十二年十二月二十日 郵務局

乙 秘第 二七九三 號

十二月十九日

大韓新聞社長入京ノ件

韓國大韓新聞社長 李仁植ハ本日入京(午後二時ヨリ
新橋駅着)

直ニ神田區錦町三丁目拾一番地旅人宿峽陽館
投宿セリ

3779 秘

3

第一課

朝鮮新聞社

明治三十二年十二月二十日 警務局

七秘第廿七八四號 十二月廿日

韓國留學生ノ行重

第一課

第3門

警務第3780

合邦問題ノ関スル韓國留學生ノ行動ニ就テ
昨十七日乙秘第廿七七號既報ヲ經テ所アリシガ
先託人名ハ本容九及ヒ宋秉峻ニ天誅ヲ
加ント詭激ノ言論ヲ爲シアル者ナルヤノ疑
アリテ視察中ノ処本日午後三時三十分新
橋駅發汽車ニテ友人同宿者韓國平安
北道鐵山郡秋北村明治大學生金尚沃ト共ニ
歸國ノ途ニ就ケリ

東京市神田區錦町三ノ九武田イシ方止宿
韓國平安北道宣川郡
並別英語學校生徒
自稱中央大學生
金益三
二十五年

日新新聞

乙秘第二七九五號

十二月十九日

韓國留學生會令件

第一課

佐藤

第30門

文第3781

本日午後三時ヨリ牛久一區赤城元町飲食店花月。早
稲田大學韓國留學生同窓會負主名會令也
會自的ハ早稲田大學政治科ヲ卒業セル同國
人尹學鎡ハ韓國國泰徒ノ爲メ被害セラルル追悼
會ヲ兼ネタル也 幸會ニシテ會負中金載健
ハ無題ノ下ニ演說シテ曰ク

東洋ニ於テ獨立國體面ヲ維持セルハ日本清國

及我國ナリ仍テ歐洲諸強ニ對抗スルハ此三國ニ若カ

又然レ且目下一進會ノ提唱ニ僅ル日韓合邦ノ

如キハ時機高早ナリト云ハルヲ得ズ依テ吾人韓

國人ハ此舉ニ對シ絶對セカルフカズ然レ且東洋

ノ大偉人ハ伊藤公ノ死ハ吾人韓國人ト魚ヲ滿

腔ノ同情ヲ以テ哀悼スルヲ得ズ

次ニ尹學鎡ノ靈ニ對シ讀經セリ其他ハ在學留

學生ニシテ各自研修セル學科ニ就テ高談ニ別ニ

取り止マル事ヲ最後ニ国歌ヲ唱シ韓帝ノ萬歲ヲ

唱ノ酒宴ニ移リ八時無事敬會セリ

REEL No. 1-0866

0198

在本邦韓國留學生一進會、合邦提議ヲ以テ祖國教育年
ノ歴史ヲ顧ミス國民ノ本ヲ忘却シ國內ニ紛擾ヲ起サント
スニモトレ、翌日未各所ニ集合シテ協議之所アリ、其ノ結果純立
権回復ハ現時ノ状態トシテ到底爲シ得所ニアラス、サレモ之カ念
慮ハ一日モ忘ル可カズ、若シ時機到來セハ奮然之ヲ回復
ヲ謀ルサレトス、然レモ今日現世政治ニ支配セラルハ已ニ得
サレトシテ一邦國民ヲ除ク外ハ之ニ服従シ日本啓蒙誘導ヲ
受ケテアリ一進會ハ今日迄改伊藤公ノ指導ヲ受ケテ各方
面ニ活動シ國民ヲ開化スルニ努メテアルヲ以テ、今會ノ行動ニハ
窮クテ賛成シテアリシモ、今回突然合邦問題ヲ唱導セ
ルハ祖國ヲ賣ラントスルモノナレバ國民ノ義務トシテ當然背過
ス可キアラストテ、昔ル高麗郡區屬士見町大韓興文會ニ向
キ學生評議會ヲ開キ更ニ去ル八日ヲ以テ學生全體會議ヲ
開キ留學生中ヨリ委員ヲ選出セシメ、全國ノ有志者ニ對シ
一進會ニ對シテ論其ノ他ノ合邦問題ヲ賛同スル團體ニ對シテ
ハキ檄文ヲ配布シ且ツ京城其他ニ於テ衆刊スル新分雜誌ニ
合邦支辨ヲ唱導セラル事ヲ滿場一致ニ決議シ、尙今後日
本政府モ合邦意見ニ傾キ居ルカラ視察セラル上其傾向アルニ

於テハ韓國民ハ之ヲ列國ニ訴ヘ飽迄反對ノ態度ヲ取ル可カラ
ズトテ敢テ學生中ノ先輩者李豐載高元勳ノ兩名
ヲ揆定シ九日午後九時ニテ先發歸國セシメタリ
而シテ右兩名ハ進會ヲ解散セシムル或ハ進會ノ後授者トシテ
本問題ヲ惹起シタル内田良平其ノ他教名ヲ退韓セシム
ルハ用ヒ候来セスト誓ヒタル由尙統監在ハ興文會代表者ノ
運動ヲ抑制スルノ手段ヲ取リコトアムハ一電ノ下ニ教名ノ學生ハ歸
國シ之カ告授ヲ共ニ益々合邦反對ノ國論ヲ喚起シ場合依
リテハ在京學生ハ興文會ヲ歸國ニシテ揚言シ居レリ
彼等學生團ハ寺ル十三日錦輝館ニ開キ先對韓國全志會
演説會ノ弁士カ合邦論ヲ唱ヘ先對シテ臨監警官カ之ヲ制
止セザリシハ祖國ヲ侮辱シタルモトシ之ガ狀況ヲ筆記シ故國先
輩元老ニ宛テ郵送シタリト
又學生中ニ當日進會長李容九ヨリ河野廣中ニ宛テ
言譯的ノ電報ヲ送リタルトハ深憤激シ今日ノ如キ問題
ヲ惹起シタル李容九、宋秉燮兩名タルハ此ノ兩人ニ天誅
ヲ加フル外ナシト決心セル者教名アリ
一兩日前深夜興文會ニ宛テテ李豐載高元勳兩名ヨリ

阮世はが代表者ノ運動ノ壓迫ヲ加ヘ居リト通知シ来リタル
ヨリ此ノ上ニ用ヒ合合シ非常手段ヲ講スルノ外ナシト何モ決心シ
居リ諸學校モ年来ノ休暇トナルヲ此ノ際ヲ利用シ何レモ
帰國シテ應説其他ノ方法ヲ以テ飽迄一進会ノ解散ヲ迫ルコトニ
象議一決シ居リト云フ

明治三十二年十二月二十一日

書政務局

乙秘第ニ八〇四號

十二月廿日

韓國留學生返京ノ件

第一課

Handwritten signature

第三門

本月九日大韓興學會ヲ代表シ合邦反對運動ノ爲メ京城ニ向ヘル李豊載、高元勳、二名ハ本日午後返京セリ

大韓興學會

右御參考道内報ス

Handwritten notes on the right margin

第3門

通商 人事 會計 取調 報告

大臣

次官

三四七三 (平)

二六

小村外務大臣

曾補統監

京城發 四十二年十二月廿二日 九五二五



政務

本日

前上時羊頭佛國教會堂ニ於

タル白耳義皇帝追悼會ヲ終ハリ歛

途同會堂正門外ニ於テ李首相ハ人力車

ニ乘リタル際平壤城内耶蘇教徒李在明

ナルモノ、為ニ出刃庖丁標ノモノヲ以テ三

ヶ所ヲ刺サレ生命危篤ナリ毒細永調

ノ上詳報ス

古

任職ニ付後ニ於テ此ノ如ク

伊藤 長 柳 五 郎 行

明治四十一年十二月二十二日 奉 郵務局

乙 秘 第 三 八 八 號 十 二 月 廿 日

第一課

朝鮮問題全志會 件

第 3 門

本日午後四時三十分より櫻田俱樂部に於て朝鮮問題全志會ヲ開ク出席者ハ

山田喜之助、權藤震三、小川平吉、横矢重道、望月龍太郎、三浦逸平、五百木良三、福和五郎、長谷川芳之助、大谷誠夫、塩谷恒太郎、相島勘次郎、高橋秀臣、坂東宣男、藏原惟郭、高田三六

第 3809 號

筆等にて長谷川芳之助、座長に推し朝鮮問題に關し曾根統監と共に警書、起草に就て協議し權藤震三執筆起草を終り多ク修正を加へて決定し次に首相以下各大臣、訪問委員ヲ選り、小川平吉、阿野廣中、大竹貫一、山田喜之助、長谷川芳之助、五名ト決し午後六時三十分散會セリ

追テ警書等書ハ來ル廿四日頃ヲ以テ發送スル趣ニ同下極秘密ト附シアリ

大臣了

次官

政務

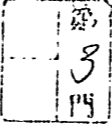
通商

人事

會計

取調

報告



四月八日 四月二日

小村外務大臣

曾補統監



本署 昭和十二年十二月廿六日 六三〇

事務相 容体 左ノ如シ

一 左肩胛骨内側上計刺傷一ヶ所 深サ約一センチ

一 右腎臓部刺傷一ヶ所

一 同腰部刺傷一ヶ所

創傷ハ何レモ深ク割リシニシテ、如ク多量ノ出血アリ脈搏手ニ應テ六体温ハ三十一度

七五

伊藤(強) 強(強) 強(強)

五度以下ニ下リ瀕死ノ状態アリニシテ應急ノ手当ヲ施シ出血燦々トシテ時間ヲ経テ脈搏ノ數ノルヲ得漸ク危篤ノ症状ヲ示シタルヲ得タリ

夜間体温脈呼吸食氣尿通等順調創傷ノ疼痛ハ多少アルモ惡化ナシ一時ノ危険症状ハ全ク防テ得タルヨリ今後大韓病院ニ入レ創傷其他ノ計ニ成ルハ完全ノ治療ヲ施スノ準備ヲ怠ラズ

明治四十三年十二月二十三日接獲 主務 政務局

乙 秘 第 六 三 號

十二月廿二日

河野廣中ノ談

朝鮮問題同志會長河野廣中が合邦問題に關シ
語ル如ク如シ

第 3 門

3814

我が對韓政策タルヤ軟弱ヲ主トセルヨリ遂ニ密使事
件トナリ又伊藤公ノ横死ヲ來タシ在昔今日ニ至レリ此
期ヲ以テ高壓手段ヲ加テ韓國ヲ附庸トナスベク一進會
ノ提唱ハ其機ヲ得タルモノト信ス密使事件ノ際各國
カ曰ヲ揃ハテ韓國ノ門戶開放ヲ唱フル中伊藤公獨

國ナル韓國ニ對シ門戶開放ト云フベシトテ贊同セズ亦
以テ公が合邦ヲ期セシヲ知ルベク當時自分ハ同意數
ト合邦ヲ公ニ迫リシニ公ハ暫ラ以時機ノ至ルヲ待ツベ
シト云ハレタリ然ルニ公ノ横死ハ同問題ニ傾倒ヲ來タセ
ルが公ノ政策ヲ踏襲セル程候亦合邦ノ必要ヲ認ムル
ヲ以テ一進會公氣運ヲ促スバク合邦ヲ提唱スルニ至リ
韓人ノ不平ハ到底避クバカラズ此際斷然合邦スルヲ
可トス云ク

以上

明治四十二年十二月二十三日接電

警務局

乙秘第二八三三號

十二月廿三日

第 課

韓人ノ行動

大韓新聞社長李人植ノ行動左ノ如シ

二十九日午後二時十分新橋着直ニ神田區錦町三丁

目十一番地下宿業峽陽館投宿九時卅分就寢

二十日午前十時附近ノ理髮店ニ赴キ十一時既宿其

後在宿午後十二時就寢

二十一日午前九時卅分外出豊多戸郡中駄ヶ谷町字原

宿百八十番地東亞青年會事務所申村太八郎方

ニ至リ直ニ同所ヲ出テ麹町区内幸町二丁目三番地

旅舎植木屋方止宿書家成田信^事韓人陸鐘允

ヲ訪ヒ約二時^間會談(内容偵察中)ノ上再^前記申村方赴

キ(全上)約三時間ヲ經テ同所ヲ辭シ既途麹町区三

番町六十九番地韓人住宅(高元勳^外九名各住ス)ニ至寄リ十一時

三十分既宿就寢

(以上)

第 3 門

文書 3815

第8門

古屋
少

抄視

以物向去之
古
笑

十月五日午後三時五十分
七時四十分

桂總理大臣宛
雷禰

(電文)

本日午前十一時東京佛國教會堂に於て
皇帝追悼會を終り歸途同會堂正門外に於て
李首相が人力車に乘りし際平城々内那蘇教
派李在明と稱する者を生捕。虎丁様ノモノヲ以テ三
ヶ刺サレ生命危篤ナリ委細取調上詳報ス

内閣

伊予県立歴史資料館蔵

警務局

第一課

乙秘第二八二七號

十二月廿二日

朝鮮問題同志會警告書ノ件

伊予

第三門

3816

昨日櫻田俱樂部於テ朝鮮問題同志會負會合ニ
桂首相及曾根統監ニ提出スル警告書起草ニ就
テ協議スル知アリク趣ハ既報(昨乙秘第二八二七號)ニ経シカ
談警告書ハ左如ト云フ

(一、閣下)韓民塗炭ニ苦シクヤ既ニ久シ而シテ我
レ宗主權ヲ行ヒヨリ其弊改テ更革スルモノ斷ナカ
ラズト雖モ多クハ制令ノ末ニ馳セ治本ノ莫斷以テ德

澤、韓民ニ普洽スルモノアズ是レ吾人ノ深慨スル如シテ
而シテ韓人志スル者ノ堪アル能ハル知也夫レ韓國ノ皇室
及其政府者ハ累代惡政ヲ施シ其民ヲ痛溺シ國破シ人
怨ム而シテ統監府ノ施設、直接韓民ニ及ハカルト何
ゾ帝ノ隔靴搔痒、ミナラム韓人中ノ有志者決然起テ
合邦ノ議ヲ唱、其民ヲ率ヒテ我皇化ニ嚮テト願、其
情誠ニ苦リ其聲實ニ哀ニ顧リニ萬已ムヲ得ガレト出ツ
我軍シク惻怛怵惕ノ心ヲ以テ之ヲ聞キ慎重以テ萬遺
策ヲキテ期スルヒ若シ今ニヒテ断セバ大局ノ事測リ知

ルバカラス 何ゾ是ヲ提唱スルモノ 何人ニシテ之ニ和スルモノ
誰タルヲ問フノ暇アリシヤ

側ニ聞ク我統監府ニ合邦論者ニ對シテ頗ル猜疑ヲ
抱キ而シテ韓政府ニ彼等ノ迫害シテ至ラサル所ナシト
是尙等ノ亡狀ゾ奏議ノ採否ノ如キハ別論ニ屬ス何ゾ是
ハ進達ヲ拒ムル理由ナキヤ甚シク彼ノ合邦ノ議ノ果シ
テ韓民一部ノ間ニ止マルヤ我ハ終ニ闔國ヲ風靡スル
ニ至ルヤ唯タ當ニ彼等ノ爲スル一任スルニ斷シテ韓政
府及不逞ノ徒ヲシテ其橫暴ヲ恣ニセシムル勿シ今小ヲ以

テ大ニ合シ弱ヲ以テ強ニ歸シ野ヲ去リ文ニ化セムト欲シテ
而シテ予未シテ我ニ赴懇ス而シテ放棄テ、顧ミスムハ決
シテ仁智ノ事ニアラサルナリ(謹言)

伊東 豊彦 宛
昭和十二年十二月二十三日

文務局長 宛

第一課

伊東

乙秘第ニ八三一號

十二月廿三日

以方

本人植、談

書

本人植、某、語リタル知ナリト云フヲ聞クニ左ノ如シ

一自分、韓國ヲ出發シタルハ決シテ秘密トシテ、
朝鮮人、能ク知ル所ニテ政治上ノ意味アリニアラズ然
ルニ下ノ関ニ到着スルヤ各地銀行ニテ三百三十圓ノ両
替ヲサヒタル為メ各地滞在、大阪朝日、毎日西新聞記
者等ニ各地、新聞社員來訪シテ合邦問題ニ對シ意
見及本完用トノ關係等、出京ノ用務等ヲ尋ネ

第 3 門

3821

ラシタルモ余リニ多辯ヲ弄スルヲ好マカル為メ一々弁
解ヲササリシニ這回上京シテ始メテ誤解ヲ招キタル
ヲ知ルニ自分、自的ハ滞在在中発表スルコトナレハ強テ
弁解、必要ナキモノト信シ去ニテ日以來知ヒ友人ヲ訪問
スルニ自分ノ目的トスル孔子教會ノ事業ニ障害アルモノ
ノ如ク此場合目的ヲ達スル能ハカルヤノ感アルト投函以
來各社、新聞社員、來訪アル為メ其、敏系ト堪ナレハ
三四日後ニ、帰國スル決心ニテ其旨、韓國ニ申遣ヒタリ

今回出京の目的は孔子教會の支部を日本に置くこと
を以て、韓國統監の勿論故伊藤公にも計りたく
ありて、接見の得たるものに、末松男の伊藤公より聞知せ
られたるモノナシハ、韓國留學生の勿論日本朝野の計
りて設立を為さんとす、外何事の意味ナキと李完
用、張使ナリトヒテ、韓國留學生を煽動スルか如キ事
ノト見ララルニ至リテハ、到底其目的を達スルヲ得カレバ
此場合一應帰國スル、得策ナルヲ思フ

李完用ト關係ハ世人ノ知ル如シテ多少重用視セラ
ルモ、今回出京ハ別ニ李完用ニ關スルモノニアラザルモ、此
等ノ關係上臆例ヲ以テ種々流説ヲナシタルモノナリ
韓國に於ケル合邦問題ハ、章程鑒定して日本に於ケル
物議ノ如ク、不世に合邦問題、何して帰着スルモノカ
ヤ、今日云フノ必要ナク、韓國に於テリ統監府の勿論張
視慶に於テモ夫レノ重立者ニ説諭して居ラルハ
近々落着キ見ルナリ

李完用ノ遭難ニ就テ、友人より電報に來リタル以
テ、承知スルモ、本日(廿三)午後ニ至リ、新聞社員、未だ訪

リトキ「死志」スルノ電報ヲ見テ、同人ノ「死去」ハ、韓国ニ於
ケル「変事」ナルモ、改事上ニ就テ、大變動ハ、多分アウガルモ
ト信ズ、大體ノ方針ハ、統監ニヨリテ支配セラルルヲ以テ、何人
ノ内閣ニ依リテ改事上ノ「変革」アルヲキテナシ
一本見「道」朝来新聞記者、来訪ヲ禮ヒ、自分出京ノ
目的、大要ヲ談シ、タハ、多分「誤解」ハ、氷解スルヲウヒ、本
禮維アリトシキ、既ニ「帰国」ノ旨通知シタルヨリ、三、四日
後ニ、是非、假國ニタヒ、ナシ

15

4500
千

大臣了

次官

政務

通商

人事

會計

取調

報告

第3門

京城府比十二年十二月廿四日
高島署
外出五

小村方橋大臣

事務統監

日支二局

時日大紳醫院ニ入院治療後経過左ノ

肩、痰ハ肺ニ入り傷口ヲ息ヲ吹出し
居ル故遠處ニ幸當ヲ為シ腰部ニケ所ハ
痰ハ随分大ナレトモ腹腔内ニ入り居ラズ其後
肺炎ヲ起サズ経過セバ具込アリ

七五

伊藤子英藏博士

伊予長門守

明治四十二年十二月二十四日

警務局

乙秘第六八三三號

十二月廿三日

第一課

李人植ノ行動

第8頁

機密 受第3832 號

一 廿二日午前八時分毎日電報記者草野正夫來訪
九時退出九時十分韓人吳改善(裁判事)本邦人一名
ヲ伴ヒ來訪午後一時退出先是午前十一時早稲田大
學入校中ノ韓人某來訪正午退出午後一時船橋某
來訪同亦分退出

一時亦分外出神田區猿樂町二十目二番地安道音之助方

ヲ經テ同町三十目一番地居住韓人金其塔ヲ訪ヒ五
時返宿

五時亦分東京朝日讀賣萬朝報毎日報知中央
ノ各記者來訪八時阿部某(譯)來訪十時退出

附記

李人植來朝ノ目的ハ既報ノ通り孔子教會支部設置
外ヲラスト稱シ其會則百區五中ノ一ヲ爲シタル也
ノト同會長金鶴鎮ヨリ地方部長ヲ委任セラレ名辭
令様ノモノヲ來訪者ニ示セルガ其委任文中日本留

學生ニ本趣有テ宣布スベシトノ意味ヲ記セリ尚ホ
右布教ニ付テハ留學生高元勳、李重昌、吳汝善
李義璽、洪濤、五名最モ尽力セリト云ヒ然ルニ一
部留學生間ノ風評ニ依レハ本人ノ淺學ハ確ニ秘密
ノ儀命ヲ齎ラシテ来リタルトハ明瞭ナリ現ニ孔子教會
ノ前會長ハ現文部大臣タル李容植ニシテ李人植
トハ其關係淺カラズ然レニ大韓新聞ハ御用紙ナレハ兎
擧テ人植ハ機業ニハシト爲シ口實ヲ構ヘ内
閣ヨリ機密費ヲ取出シ來レルヤラシムニカト

明治三十二年十二月二十四日 主務政務局

統制第九七号

第一課

主務
本
佛
古
地
不

受第3835號

今回ノ日韓合邦事件ニ在るハ
 國人ノ於テモ深甚ナル注意ヲ拂ヒ居ルモノ
 以テ英領事ハ改定新領事ノ記事
 論議等ニ就キ皮肉ヲ試シ事件ノ真相
 ヲ本國政府ニ報告スルニ努メ又本國
 總領事力ヲ以テ外務部長ニ得下會食
 節雜誌中ニ言明シタル所ヲ授レハ各
 地ニ於テ外國宣教師ハ韓人ヨリ事件ノ
 成行ニ就キ續々皮肉ヲ受クルモ帝國
 政府ノ意思ヲ窺知スルニ由ナクシテ返
 答ニ窮シ居リタル際本官ノ意見ナリ
 トテ在野新聞ニ記載セルモノヲ韓領シテ
 之ヲ韓人ニ示シ決シテ杞憂ヲ懷キテ動
 搖スヘカラスルヲ諭シタルニ就シモ初メテ
 安堵ノ思ヲ爲シタリト語レルニ徴スルモ其
 ノ一斑ヲ推知セラシ美益シ我カ保護權
 ヲ韓人ニ行ヒタル以前ニ在リテハ韓民大
 抵地方官ノ積弊ニ苦シシ常ニ外宣
 教師ノ掩護ニ頼リテ苦難ヲ免ルニシ

宣教師等を専ら之ヲ専任トシテ其ノ
 勢力ノ發展ニ努メタルノ状アリ能ルニ數
 年以來行政改善ノ事業漸次進捗ス
 ルニ至リ宣教師等カ政治ニ參與スルノ
 有書尤ク徳ソク之依リ一方ニ於テハ傳
 道教育等々他諸善事業ノ經營ニ對
 シ之分ナル便宜ノ補助ヲ與フルニ各ナラ
 サルト同時ニ他方ニ於テハ其ノ職務以外
 ナル政治問題ニ參與スルヲ防遏スルノ希
 望ヲ以テ伊藤系統監時代ヨリ屢次
 外國領事力及ビ多ク宣教師等ト接
 合シタルヲ既レモ此レテ我カ希望ニ應ジ
 領事力ハ多數會々川東ニ宣教師ヨリ
 ハ其ノ部下及邦人信徒ニ諭告シタル結
 果今日ニ至リテハ基督教徒ニシテ政治
 上ノ運動ニ加捲ルモノ尠シト雖多數
 ノ愚民中ニハ教會ニ入ルトキハ納税ノ義
 務ヲ負ルヘキコトト信シ納税ノ累行ヲ
 加ヘ免レ得アリ又外國ノ援護ニ依リテ
 排日主義ヲ貴カトシ空想ヲ抱クモノ稀

續
 監
 府

ナリトセズ現ニ近頃再ヒ浸来シタルハル
 パートトメキハ其ノ者チ自ラ前韓皇ノ
 親書ヲ来至大統領ニ傳達シタルヲ以テ
 韓米條約第一條中韓國爲シ他國ノ處
 遇ヲ受クルルキハ米國之ヲ援護スレト
 ノ規定ヲ實行スルキ仲介ニ當リタルニ外
 ナラサルヲ云シタル程トハ韓人中外ニ
 之依頼セムルニ迷想ヲ抱クモノアルハ必ス
 モ恠シムヘキニ能ス殊ニ露國及米國ニ在
 位スルモノノ如キハ流激ノ言論ヲ集シテ遙ニ
 懸慕ノ韓人ヲ煽動スルニ全力ヲ盡シワ、
 アリ今面ノ今邦問題ノ如キハ此等ノ如リ
 派ニ對シ民心ヲ刺激スルヘキハ辭柄ヲ與フ
 一キハ自然ノ勢カナルヘキモ幸ニレテ自是レ唯
 一途會ノ致意ヲ出サタル、過キサル事實
 判明スルニ至リタルヲ以テ外國宣教師及
 韓人信徒ニ對シ甚ニキ煽動ヲ與ヘサルカ
 以テ其見ハ其限今ニ於テ在る外國
 人ノ状況御報告方中申送ル也
 明治三十二年十二月五日

統 監 府

後監子爵常備兼助



外務大臣伯爵小村壽太郎殿

統監府

井浦村

伊多...

明治四十二年十二月二十五日 警政務局

乙秘第 二八五二 號

十二月廿四日

第一課

李人植ノ行動

第 3 門

機密 受第 3841 號

昨三日前九時廿五分宿所ヲ出テ中村太郎ヲ訪ヒ
約分間會談ノ後既宿中一時五十分下谷区上根岸町并
九番地岡村熊久表訪約分ニシテ退出午後二時廿分
朝日新聞記者河野玄龍來訪會談一時間ニシテ退出
時五十分岡中某來訪問モテク退出五時代議士中村彌
六方中村久四郎(彌六ノ養子
帝國大學講師
孔子祭典會幹事)ニ電話ヲ掛ケタルニ本人
不在ノ爲メ家族ノ者代テ受話セシガ其際李曰ク自分

今回一ノ孔子會ヲ設ケタレバ種々御伺ヒ致シタキ事アリ
何時頃出テ宣シキヤト然ルニ本人不在ナレバ誰モ換
撥ハ出来兼スル旨返答アリタリ十時京城茶本郷區駒
込淺嘉町阿部佐太郎(警察)一方李人植宛電報ヲ回送
シ奉レリ是出人ハ不明ナルモ電文ハ李總理ノ經過良ト
アリシ由同分就寝

附記

本人ハ末松子爵ニ依頼シ世人ノ疑ヲ解カシ考メヤリシ也
同子ハ韓国ノ事情ニ暗キヲ以テ曲日禰統監奉月三

田京城ヲ余レ既朝セラレ、昔ナレハ其ノカヨリ仰ギ藤原
ヲ廢齊カレ所存ニテ先遣ハ伊豆ノ温泉ニ赴ク筈ナリト
或者ニ語レリ

以上

伊予路多岐路多岐

明治四十二年十一月二十五日接受

主務政務局

乙秘第六四九號

十一月廿四日

第一課

伊予路多岐路多岐

李人種ノ行動

李人種ハ既報ノ通り去ルル亦一日中村太八郎韓人陸鐘
允聖亦言同國人金基鐘ヲ訪ヒタル付其内容ヲ
偵察スルニ在リ如シ

中村太八郎ノ談

李人種ハ東亞青年會創立當時ヨリ奮負ノ一トシ
テ自分トハ相識ノ間柄ナルが今圓孔子教合ノ祭儀策
ヲ講スル為メ渡米シタリトテ來訪セルヲ以テ自分ハ彼

第3冊
第3842號

對シテ合拜問題提唱セシレ人心大ニ動搖セル際
孔子教合ニキトハ餘リニ春氣ノ所業ニアラズ中拜ハ
畢竟表面ノ口實アリト謂リタルニ彼ハ頻リニ奔馳
ニ努メタリ尚ホ自分ハ彼ニ對シ種々批評ノ喧シテ今
日速ニ既國スル方得策ナルバク且ツ留學生ニハ可成
面會ヲ避クベト勸告トセルニ彼ハ出祭ノ際適宜
意ヨリ留學生ニ對シ學生ノ奉分ヲ中拜時專門
題ニ関スルガハ様注意スベト依頼ヲシテ答レリ
ト語リ退出セリ

陸鐘允ノ談

亦日朝李人植ヨリ突然電話ニテ余見ヲ求メタルヲ以テ自分ハ之ニ應ジタルニ間モナク來訪シテ曰ク余が今回來航セルハ全く孔子教宣布ニ外ナラズ然ルニ時機が時機トテ世人ノ誤解ヲ招キ李総理ノ密使ナリトテ警察憲兵新聞記者等ニ圍繞セラレ始メド手ヲ出シ足ノ踏ム処ヲ知ラザルノ窮境ニ陥レリ君ハ滞日中数年從テ此地ニ有識ノ知人多シ依テ余ノ爲メニ辨解ノ勞ヲ採リ呉レタト自分ハ之ニ對シ間ニ合セノ答ヲ爲シ置ケリ彼ハ性質狡猾無硬骨漢ニシテ巧言以テ李内閣ヲ説キ多少ノ運動費ヲ貪リ來リタリトスルモ何等爲ヌベキ人物ニアラズ

金基璋ノ談

李人植ノ大韓新聞社長トナリシハ趙重應ノカニシテ兩人ハ日本在留中ヨリ殆ンド主従ノ如キ關係アリシモノシテ趙が既韓後李完用ノ知遇ヲ得閣員ニ列シタル結果從テ大韓新聞ハ内閣ノ機關紙タルコトヲ得タルモノナリ元來李人植ハ教育ヲク主義方針ナル人物ニアラズ

本人ハ先般來韓國ニ於テ合邦反對運動ヲ爲シ居リ
タルモノナルニ今固突然渡來シタルハ不可思議ナル強
ク其目的ヲ質シタルニ孔子教會支部設置ノ爲メヤリ
ト稱シ敢テ他ヲ語ラザルモ京城ヲ奔ルニ除シ趙重應
ノ手ヲ經テ李完用ヨリ二百兩ヲ貰ヒ受ケタル由ヤレバ
彼ノ渡來ハ合邦問題ニ對スル日本ノ意向偵察ニヤリト
推測セラル由來李完用ハ韓國政治家中第一流ノ人物
ニレテ亦親日派中同人ノ右ニ出ツル者アルヲ見ズ然ルニ
李ノ合邦ニ反對スルハ一進會ノ手ニ依ラズレテ自ら其

功ヲ収メントノ考ヘタル事國民ノ意向尙ホ之ヲ早シトス
ルヲ見越シ反對シタルニ過ギザレバ先以テ日本國民ノ
意向ヲ調査セントスルニアルベシ而レテ李守人植ノ云ル
子教會ナルモノハ這回同人ニ依テ始メテ兼知シタルモノ
ナルが思フニ彼ハ一面其親戚ナル李容植ノ文部大臣々
ルヲ利用シ孔子教會ノ支部ヲ日本ニ設ケ其支部長々
ト同時ニ目下欠員中ナル留學生監督タラントノ野
心ヲ懷ケルヤラシカニ云々

以上

伊予縣立総合資料館

明治四十二年十二月二十七日接受

警政務局

乙秋第百六十八號

十二月廿五日

第一課

李人植ノ行動

第8門

機密 受第3849號

廿四日午前十時分中村太八郎宛孔子教會趣旨書約百枚同會規則書約百部ヲ郵送ス午後二時分宿所ヲ出テ麹町区三番町六十九番地居住同国人高元勲ヲ訪シ五時同人方ヲ辞シ同區中六番町大韓興學會ニ赴キ孔子教會趣旨書及規則書數百部ヲ差置キ八時既宿先是七時分府下北多戸郡吉祥寺小學校元校長須藤正守來訪本人ノ既宅ヲ待覺ケ會談一時間餘ニシテ退出八時四谷区

新堀江町四番地森一軒來訪會談約二時間ニシテ退出先レヨリ李ハ京城會洞大韓新聞社内花田節同ジク會洞八十九號十一戸鈴木長宛信書ヲ發シ就寝

以上

第3門

報告 取調 會計 人事 通商 政務

大臣 次官

四五二九 (庚)

多岐 長 二年三月廿七日 在六四〇
多岐 署
廿八日 前 〇五〇
小村 外務大臣
曾 祿 統 道

李 首相 容 軀 之 水 之

二十三日 午後 脈 軀 温 三十七度 五、六分 脈
一 脈 外 呼 吸 二、五、六、ナリ シカ 昨 日 午後
軀 温 再 昂 三十一度 五分、昇リ 脈 呼 吸 及
ハ 變 化 ナシ 又 一 昨 日 午後 時々 血 痰 ヲ
吐ク 檢 鏡 上 肺 炎 菌 及 化 膿 菌 ヲ 認メ
ス 右 部 化 膿 ノ 兆 ナシ 食 氣 少 シテ 進ミ
元 氣 未 補 生シ 未リタルモ 熱ノ 昇リタル 原
因 明カ ナラズ 檢 鏡 中 ナリ

伊藤 氏 診 察 後 肺 炎 菌 等

古

六

警備部 第五十八番

警政務局

第一課

乙秋第六八〇號

十二月廿七日

李人植ノ行動

第3門

文第3873號

廿五日午前九時十分宿所ヲ出テ赤坂区新坂町六番地中
 村久四郎(既報第六ノ養子)ヲ訪ヒ合談約一時間ニシテ同所ヲ
 辞シ先レヨリ神田区柳町高橋洋服店ニ至リ二重廻ヲ購
 求既途同区袋町八代洋服店ニ立寄り右ノ二重廻ヲ鑑
 定セシメ正午飯宿午宿ニ時四谷区新堀町四番地森一瓢
 六時同区永住町二十八番地吉田龍郎(陸軍少尉依我中不都合ノ麻アリ官ヲ制ガレ其後豫戒命令ヲ執行セル人物)ニ時廿分阿部佐太郎(既報李ノ妻弟)ニ來訪吉田八六時

廿分森阿部八六時廿分退出ス

廿六日午後一時宿所ヲ出テ下谷区上根岸町廿九番地岡村
 兼久ヲ訪ヒ約十分間ニシテ同家ヲ去リ本郷区浅嘉町六
 二番地阿部佐太郎方ニ至リ一時四十分間談話ノ後退出
 既途同区原片町首番地潮泉寺方東洋大學生會高橋
 景方ニ立寄り五時十分飯宿八時韓人朴宗植(東洋大學生)ニ來
 訪中時廿分退出

附記

岡村八所謂山師ニシテ國農ニ韓國ニ於テ官地備用ノ

伊方赤坂区新坂町六番地

三東

申請ヲ為シタル當時李人植が李總理ト関係ノ淺
カラザルヲ知り萬事利己ノ目的ヲ以テ李ニ接近シツ
ニアル事ノヤリ

阿部佐太郎ハ砲兵工廠ノ職工ニシテ其姉鈴春アリ
李人植ノ妻タリ其關係ニテ往來スルニ止マル

以上

伊予縣警務局長

明治四十三年一月四日接受 警務局長

乙秘第六八七號 十二月廿八日

秘受第

第一課

李人植ノ行動

昨午午前十一時宿所ヲ出テ駿河台金杉病院ニ至リ
十一時五十分飯宿午店一時廿分園村熊久四時廿分吉田
龍即來訪園村雜談昔園ハ一時園村ハ同廿分退出先
是八時涼城米倉町六十四番地小山利藏ヨリ信書到着

附記

再三李人植ヲ訪問セル森一瓢ハ本名ヲ芳五郎ト云レ
埼玉縣人ニシテ小學教員、郡役所雇、各種検査員

等ヲ奉職シタルコトアリ卅九年渡韓私立京城學舎
ヲ設立本年三月既京セリ在韓中大韓新聞主筆花園
節ト交ハリ其關係ニテ李ヲ知ルニ至レル者ノニテ訪問ノ
理由ハ金策ニアリ

以上

第3門

伊藤(我)種(及)終(結)形

附屬書類添附

秘受第

二

號

明治四十三年一月四日接受
乙種第 二八九一號
十二月廿八日

警政務局

大垣丈夫ノ行動

第一課

栗

隨刻既報ヲ經シ大韓協會顧問大垣丈夫ハ
着意スル各方面ニ電報ヲ以テ吹聴シ先趣ニ
テ唯今ニテ同人之訪問シタル事モナル者ハ長
浦某園田桃風望月小太郎等ニシテ同人之合
辦問題ニ関シ語テ回ラク大韓協會ハ排日思
想ヲ鼓吹スルモノニアリテ隨テ合邦論ニ絶對
反對ヲ示スルハ其時期尚早シト見込テ一進會

第3門

ノ輕率ニ其見成セザルノ人ヲ因ノ上高ハ大韓
協會ノ真相ヲ紹介シ尚ホ議會ノ形勢ヲ視
察スルニアリト稱シ別紙韓國國事情一班ト大韓
協會宣言書ヲ奉 話者ニ頒テアリ

以上

韓國國情一斑

曾祖統監は一視同仁を宣言し從來継子扱ひを受
け居りたる排日派に頗る慰安を興へて大に信賴の念
を起さしめ産業政策を執りて生活難を叫ぶ韓民
に前途の希望を懐かしの國情益々良好に赴き不
平者曰く減少するの折柄平藤公爵の遭難ありて
母國の人々に韓國國情を誤解せしめたりと雖と
も彼等は境外乱民の行為にして國公官民とは何
等の關係亦し一進會、大韓協會の聯合は國民等

つて統監旗の下に自奮自勵するの約に基き其分
裂したるは合邦の提議に在り一進會は合邦實行を
主張し大韓協會は姑らん現状を以て進行し他日
適當の時機と方式を選ばしむと云ふに在り今合邦
及對運動は現内閣員が自己の党票を使啖して金錢
又は官職を以て陋劣なる運動を開始したるに依り大韓
協會は此間超然として一進會の輕率と現政府の妄
動を非難して人心鎮撫を勉む左記の宣言書を以て
之れを証すや一進會は東學黨の系統、天道教の一

派あり侍天教と同体異名にして當國人には頗る蔑
視せられたる、大けそれ大け極端に親自行動を為し大
韓協會は西班、儒生、外國留學者、耶穌教、天道教
の聯合体にして比較的有識者財産家を網羅する大
け慎重の態度を以て國事を擔任するを自期す

大垣丈夫識

大韓協會宣言書

凡そ政治の目的は國民多數の幸福を期圖するに在り故に國民の幸福に基き多數の希望に適ふ場合に於て或は日韓の關係を更改することあると本會は固より異議を唱へずと雖も今回一進會の突如日韓の合邦を提議し其實行を逼るが如きは我國情を顧みざる輕率にして多數の民意に及するのみならず其結果は國民の反抗心を挑発し延て兩國の親交と國家の進運に悪影響を及ぼすを奈何せん

由來本會は西國既定の協約に基き現状を以て進行す所の有利なるを認むと雖も若し國民の開明と國家の發達を致して國民の幸福上多數の希望に依り相當の方式を以て日韓の關係を更改するは固より左祖す所ありとす然りと雖も今や保護政治が著々進行し國情益々良好に赴き我國民の思想は現在の日韓關係を標準として西政府の政治經濟相互密接し西國民の利害休戚相互共通し決して輕重すべからざるを自覺せんとし先進國の善良なる指導に依

リて忠實ある國情を造り以て文明富強の域に到達
一兩國協約の趣旨を遂行せんことに努力する今日
に於て何の必要ありて突然合邦を提議する乎本會の反對
する所以は主として此矣にあるのみ蓋し一進會は皇
室萬歳と一等國民を云為すと雖も所謂合邦は委任
統治の意ある乎聯邦政治の義ある乎又全韓の民
籍を日本に移すとせば直ちに一等國民たるの理由如
何全文を通讀するに杜撰粗笨を免れず何ぞ魚謀
輕率の甚きや思ふに日本政府及曾稱統監は

賢明にして能く兩國の現状を熟知す必ずや一進會
の建議を以て兎戯に類すと為し一顧たも憚らざる
べし我聖明及び政府に於ても該請願を拒否する
のみならず彼等若し強請已まざる時は必ずや國法
を以て處分せらるべし故に我會員及國民は此際須
らく平穩靜肅にして家業を勵み決して動搖狂奔
すべからず然るに現政府は其職責を忘却して自ら
威嚴の失墜するを知らず本問題を以て奇貨措くべ
しと為し自己の兇器を便礙して陋劣あるを對運動

を為さしめ以て民心動搖を媒介したるのみならず
籍を以て排日思想を鼓吹し兩國の親交を害す
に至り其責亦た免るべからず
本會は以上所述の理由を以て一進會の輕舉を遺憾
とすると同時に現政府の忘動を悲しみましたるを得ず是
を以て茲に宣言書を發布す